

越中の戦国時代と城館

萩原 大輔(富山市郷土博物館 主査学芸員)

◆はじめに

*越中の戦国時代

守護：室町幕府管領の畠山家(基本は在京、国元にいない)

守護代が越中を支配 新川郡：椎名家 婦負郡・射水郡：神保家 砺波郡：遊佐家

16世紀初頭 越中一向一揆の勢力拡大

神保 VS 椎名(・越後上杉)

*上杉謙信の越中侵攻

謙信の元服後の初名は長尾景虎。のち宗心の法名を名乗る時期を挟んで以降、上杉政虎、輝虎(早虎という名を併用する時期あり)、不識庵謙信と名を改めていくが、以下「上杉謙信」で統一

家臣に指揮を委ねた軍勢の派遣ではなく、自ら兵を率いる出馬が、天文22年(1553)の信濃出兵を皮切りに、生涯にわたって40回前後を数える

出馬先ランキング 第1位 関東 17回(うち8回は越年を伴う)[築瀬 2017]

第2位 北陸 11回(うち10回は越中)[萩原 2017]

第3位 信濃 9回(うち5回は川中島の戦い)[前嶋 2017]

※生涯最後の国外出兵も北陸方面だが、ほとんど知られていない

【表】謙信北陸出兵一覧[萩原 2020]

No.	始期	終期	期間	出兵先	敵	出馬理由
①	永禄3年(1560) 3月26日	永禄3年(1560) 5月	約1ヶ月	越中	神保長職	椎名康胤への合力
②	永禄5年(1562) 7月	永禄5年(1562) 7月	約1ヶ月	越中	神保長職	椎名康胤への合力
③	永禄5年(1562) 9月	永禄5年(1562) 10月16日	約1ヶ月	越中	神保長職 一向一揆	椎名康胤への合力
④	永禄11年(1568) 3月	永禄11年(1568) 4月	約1ヶ月	越中	反畠山義綱方 一向一揆	畠山義綱への合力
⑤	永禄12年(1569) 8月	永禄12年(1569) 10月27日	約80日	越中	椎名康胤 反神保長職方 一向一揆	神保長職への合力
⑥	元亀2年(1571) 2月29日	元亀2年(1571) 4月	約1ヶ月	越中	椎名康胤 一向一揆	神保長職への合力
⑦	元亀3年(1572) 8月	元亀4年(1573) 4月21日	約8ヶ月	越中	椎名康胤 一向一揆	関東出兵に向けた仕置
⑧	天正元年(1573) 8月	天正元年(1573) 8月	数日	越中	一向一揆	関東出兵に向けた仕置
⑨	天正3年(1575) 7月	天正3年(1575) 8月21日	約1ヶ月	越中 加賀	一向一揆	関東出兵に向けた仕置
⑩	天正4年(1576) 8月	天正5年(1577) 4月	約8ヶ月	越中 能登	能登畠山氏	能登平定
⑪	天正5年(1577) 閏7月	天正5年(1577) 11月22日	約5ヶ月	能登 加賀	能登畠山氏 織田信長	能登平定

◆ 1 上杉謙信と越中（・飛騨国境地域）

* 義を重んじて越中出馬を行う謙信？

謙信が初めての越中出馬へ臨む経緯を自ら記した手紙〔「新編会津風土記」〕

「依怙によって弓箭を携えず候、ただただ筋目を以て何方へも合力を致すまでに候」
（依怙最眞によって戦いは仕掛けない。ただ物事の道理を守ったうえで、どこに対しても力を貸すだけなのだ）

盟友の椎名氏を救援すべく神保氏を討つ、非は我にあらず神保氏にありという主張

* 神仏に対して越中征服の成就を願う謙信

6 回目の出馬を前に、越中平定を祈願する謙信〔「謙信公御書集」〕

「春二三个月中、越中へ馬を出す、留守中当国・関東何事もなく無事にて、越中存ずるまま、明くる年一年は、必ず日々看経申すべく候なり」

（春3月までに越中へ攻め込む。その留守中に越後や関東が何事もなく平穏無事で、越中が思い通りになれば、来年1年間は毎日欠かさず経を読むつもりだ）

→しかし、神仏への宣言どおり明くる年の2月に出馬した際

「長職色々と歎かれ候間、図らずも出馬」（神保長職が嘆願してきたので、やむなく出馬した）と語る謙信〔「一般財団法人 太陽コレクション所蔵文書」〕

⇒謙信の二面性：神仏には越中征服を願い、表向きは盟友救援を掲げる

* 7 回目の出馬を前に、越中平定を再び祈願する謙信〔「上杉家文書」〕

「賀州と越中の凶徒は悉く退散、雑意消失、越中・信州・関東・越後、藤原謙信分国、右無事安全長久堅固、諸人は歓喜を得て、安堵の思いを住むべきものなり」

→越中を自らの「分国」（領土）と捉えるようになる

※元亀2年（1571）の第6次出馬までは、同盟勢力の要請に応じた出兵という形

⇒出馬名目が盟友救援から自国を守る建前の侵略戦争へ

* 謙信10 回目の出馬で越中一国を平定、能登の七尾城（現石川県七尾市）まで迫る

近辺の村々の百姓たちに対して、謙信側へ味方するよう脅迫

* 謙信生涯最後の出兵：天正5年（1577） 11 回目の北陸出兵

※これまでに、謙信は「飛州口ニ地利ニヶ所」を構える〔「栗林文書」〕

9月15日 能登畠山の本拠である七尾城を攻め落とす

9月23日 手取川の戦い（現石川県白山市）

…柴田勝家・丹羽長秀・佐々成政・前田利家らが率いる信長軍に大勝

9月25日 松波城（現石川県能登町）を攻め落とす = 能登全土を平定

⇒越後・越中・能登・北加賀を支配 謙信の生涯最大の版図を築く

* 謙信方として動いた江馬輝盛

①永禄7年（1564） 謙信は飛騨の内乱に越中国人らを動員して介入

秋 江馬時盛が武田氏に通じて、江馬輝盛・三木良頼らと敵対 = 「時盛再乱」

…背景に武田信玄の飛騨侵攻、江馬輝盛は謙信へ通じる

→謙信は「越中衆」に命じて「手合」

→江馬「時盛御悩望証人被相渡、御一和」〔「河上文書」〕

江馬時盛は、誓詞血判状を謙信に提出して降参〔「歴代古案所収文書」〕

②永禄12年（1569） 第5次謙信越中侵攻

9月2日 江馬輝盛が芦峯寺村（現富山県立山町）へ制札を交付〔芦峯寺大仙坊所蔵〕

※中地山城（現富山県立山町）の江馬在城は、江戸時代以降にみえる伝承

※池田城（現富山県立山町）に反江馬方の寺嶋職定がいたことは裏付け可能

③元亀3年（1572） 第7次謙信越中侵攻

9月17日晚 江馬輝盛軍が到着。山浦国清を迎えとして赴かせたところ、

敵襲があったため、河田長親勢を差し向け撃退し、富山へ押し込める。〔「上杉家文書」〕

翌年の謙信帰国後に江馬家臣河上富信を謙信のもとへ遣わす〔「飛州志」所収文書〕

④天正5年（1577） 第11次謙信越中侵攻

閏7月8日 謙信が江馬輝盛の尽力を依頼〔「河上文書」〕

◆ 2 織田信長・佐々成政と越中（・飛騨国境地域）

*上杉謙信の急逝：天正6年（1578）3月13日

御館の乱（上杉景勝 VS 上杉景虎）

*織田信長軍（神保長住・斎藤新五）の越中進攻 謙信没後すぐ

4月7日 信長、神保長住に越中入国を命じる〔『信長公記』〕

9月24日 信長方の斎藤信五が越中へ出陣。

津毛城（現富山市）にいた上杉方の椎名小四郎と河田長親は、美濃と尾張の軍勢襲来の報を聞き退散。神保長住が津毛へ入城〔『信長公記』〕

→飛騨経由ルート、上杉方だったはずの江馬の協力？

10月4日 斎藤信五は太田本郷（現富山市）に布陣。

今泉城に籠もっていた椎名小四郎と河田長親は、未明に城下を放火して撤退を開始。月岡野（現富山市）の戦い〔『信長公記』〕

*佐々成政の越中進攻 天正8年末～

「本能寺の変」（天正10年6月2日）

※天正10年10月27日 江馬輝盛が三木自綱と対立して戦死？

賤ヶ岳の戦い（天正11年4月、豊臣秀吉 VS 織田信孝・柴田勝家）

天正11年6月頃 成政による越中平定

小牧・長久手の戦い（天正12年4月、豊臣秀吉 VS 織田信雄・徳川家康）

天正12年12月頃 「佐々成政のさらさら越え」〔萩原 2023〕

越中富山から 遠江国浜松（現静岡県浜松市）・三河国吉良（現愛知県西尾市）へ

→日本登山史上の快挙、江戸時代後期の絵本、幕末・明治期の浮世絵などでも紹介

⇒ 往路復路ともに信濃を経たことは確実、越中から信濃までの間の道筋はどこか？

- A 立山連峰のザラ峠・針ノ木峠を越えた
- B 飛騨へ入り安房峠（もしくは中尾峠）を越えた
- C 上路越えて親不知を避け越後国入り、糸魚川・千国街道を通った

*成政は「さらさら越え」復路の途中に村上義長の許に立ち寄る

村上氏の本拠：信濃国葛尾城（現長野県坂城町）

父は村上義清：弘治3年（1557）頃、武田信玄に追い詰められ、越後へ落ち延び、上杉謙信の客将となるも、信濃復帰を果たすことなく病没

→嫡男国清（義長の兄）は、謙信の養子の一人に選ばれ、越後国北蒲原郡白河庄山浦条（現新潟県阿賀野市）を本領とする山浦上杉氏の名跡を継ぎ、上杉氏一門化

謙信没後も、上杉景勝から「景」の一字を賜り、山浦景国と名乗る
弟の村上義長は天正12年4月に、高原郷まで来て成政へ支援を求めた

*飛騨の三木領は成政方、江馬領であった高原郷も成政方

金沢市立玉川図書館近世史料館蔵『山崎長門守家侍帳』

「野上甚五左衛門尉申上分（中略）一、其後飛州之住人江間と申仁、おなし国高原の城ヲ持候て有之旨、内蔵助かたより彼城へ取懸申候処、江間右之居城を明、岩屋堂と申所へ引籠有之をせめのほり、私一番鎗ヲ合申候、則つき崩申候」

天正12/12/5以降 富山を出発 12/23までに浜松へ着く 12/23に浜松で家康と対面

12/25までに吉良で信雄と対面 12/25に深溝で松平家忠からもてなしをうける

村上義長が途中まで出迎え越年 天正13/1/21までに富山へ帰着

※義長は高原もしくは猪谷に逗留 ⇒ 飛騨ルート説の蓋然性が最も高い

◆まとめにかえて 「さらさら越え」その後

*通説「家康は成政の申し出を断った」 成果なし

⇒萩原説「家康は成政との関係を絶つことなく維持」 成果あり

当時の家康 秀吉に出した人質於義伊は養子という待遇 臣従したわけではない
その後も成政と手紙のやりとりを交わすなど同盟関係を保つ

天正13年（1585）8月 秀吉の「佐々成政攻め」

成政方であった飛騨の三木自綱も制圧

その裏側で家康は信濃真田攻め（第1次上田城合戦）⇨成政への援護射撃

→（結果的に）越中・飛騨における戦国時代の終焉

以上

[主要参考文献] ※レジュメ引用分のみ、敬称略・副題略

萩原大輔 2017「上杉謙信の北陸出兵」（福原圭一・前嶋敏編『上杉謙信』高志書院。

のち萩原『中近世移行期 越中政治史研究』岩田書院、2023年に所収）

萩原大輔 2020『謙信襲来 越中・能登・加賀の戦国』（能登印刷出版部）

萩原大輔編 2023『シリーズ織豊大名の研究 11 佐々成政』（戎光祥出版）

前嶋敏 2017「謙信・信玄と「川中島の戦い」」（新潟県立歴史博物館『川中島の戦い』）

築瀬大輔 2017「上杉謙信の雪中越山」（福原圭一・前嶋敏編『上杉謙信』高志書院）